

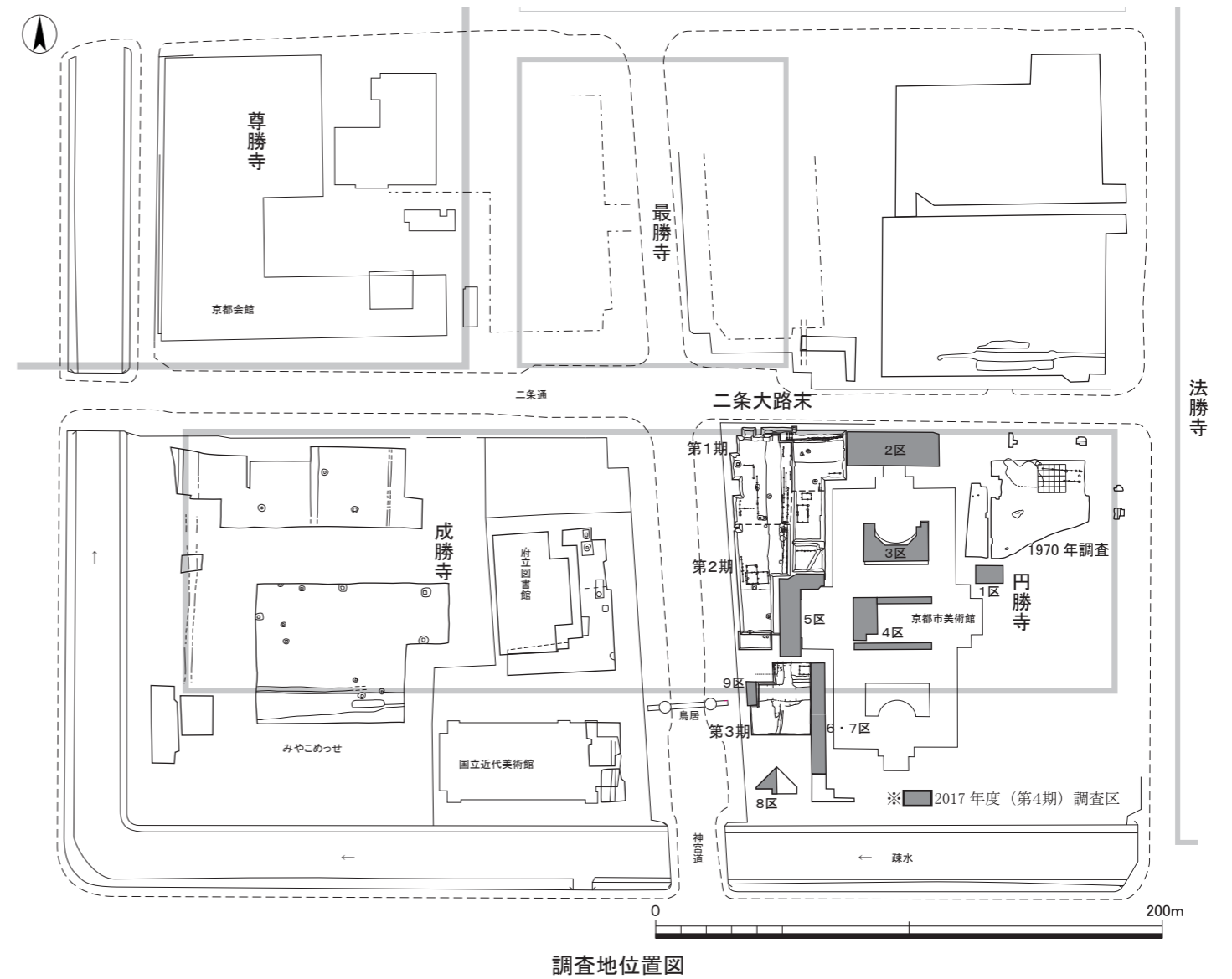
現地講座 京都市美術館の発掘調査と六勝寺をめぐる —発掘現場の見学も含めて—

2017年10月21日(土)



見学ルートマップ（京都渡来文化ネットワーク会議作成『平安京イメージマップ』を調製）

- ① 円勝寺跡 京都市美術館発掘現場
- ② 法勝寺金堂跡
- ③ 二条大路地業跡（岡崎公園野球場南西）
- ④ 六勝寺跡説明板（京都市美術館別館前）
- ⑤ 成勝寺・延勝寺跡
- ⑥ 尊勝寺西塔跡
- ⑦ 尊勝寺阿弥陀堂跡
- ⑧ 尊勝寺観音堂跡（府営住宅前）
- ⑨ 井戸移築・五大堂跡（京都市武道センター） 解散



調査地位置図



六勝寺の復元図（南東上空からの鳥瞰図、梶川敏夫氏作成）

京都市美術館 現地講座資料

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

2014年から2017年現在までに美術館再整備事業に伴う発掘調査で見つかった主な遺構・遺物

- ・縄文時代から古墳時代の流路
- ・古墳時代の溝
- ・平安時代後期の掘立柱建物、井戸、土坑、溝
- ・鎌倉時代の掘立柱建物、井戸、土坑、石組護岸溝、柵
- ・室町時代前期の溝
- ・室町時代後期の路面、耕作溝
- ・江戸時代の耕作溝
- ・幕末の井戸、溝

遺物

- ・縄文時代…縄文土器、木製椅子
- ・弥生時代…弥生土器、石器、木製はしご
- ・古墳時代…土師器、須恵器
- ・平安時代…軒瓦、瓦、瓦塔、円塔、土器類、木製品（箸・扇・椀・簀木・羽子板など）
- ・鎌倉時代…軒瓦、瓦、土器類、木製品、鞆羽口、赤色顔料（ベンガラ）
- ・室町時代…土器類（土師器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器など）
- ・幕末…土器類（土師器、焼締陶器、施釉陶器、磁器など）、土製品（土人形・泥面子）
- ・明治時代…レンガ、窯道具（匣鉢、トチンなど）

六勝寺年表（梶川敏夫氏作成）

寺・院御所名	天皇	供養等の年代	推定場所
法勝寺	白河天皇	承暦元年(1077)供養	京都市動物園とその北方一帯
尊勝寺	堀川天皇	康和4年(1102)供養	ロームシアター京都(京都会館)から疏水付近一帯
最勝寺	鳥羽天皇	元永元年(1118)供養	岡崎グランド及び西方付近
円勝寺	待賢門院	大治3年(1128)供養	京都市美術館付近から府立図書館付近
成勝寺	崇徳天皇	保延5年(1139)供養	みやこめっせ付近
延勝寺	近衛天皇	久安5年(1149)供養	みやこめっせ西から疏水付近・東大路通付近
〔その他〕			
白河南殿	白河上皇	嘉保2年(1095)	疏水事務所・夷川ダム付近
白河北殿	白河上皇	元永元年(1118)	京都大学熊野寮付近
得長寿院	鳥羽上皇	長承元年(1132)供養	川端警察署付近

① 円勝寺跡

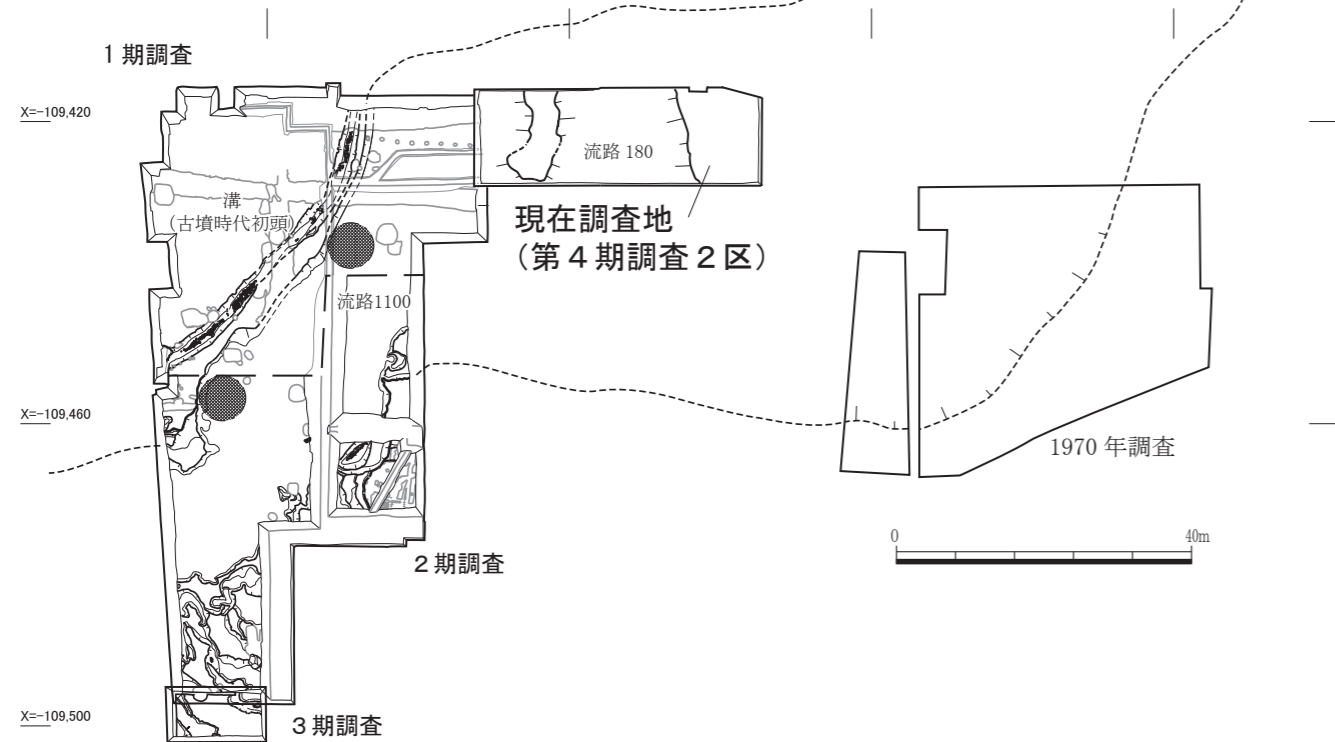
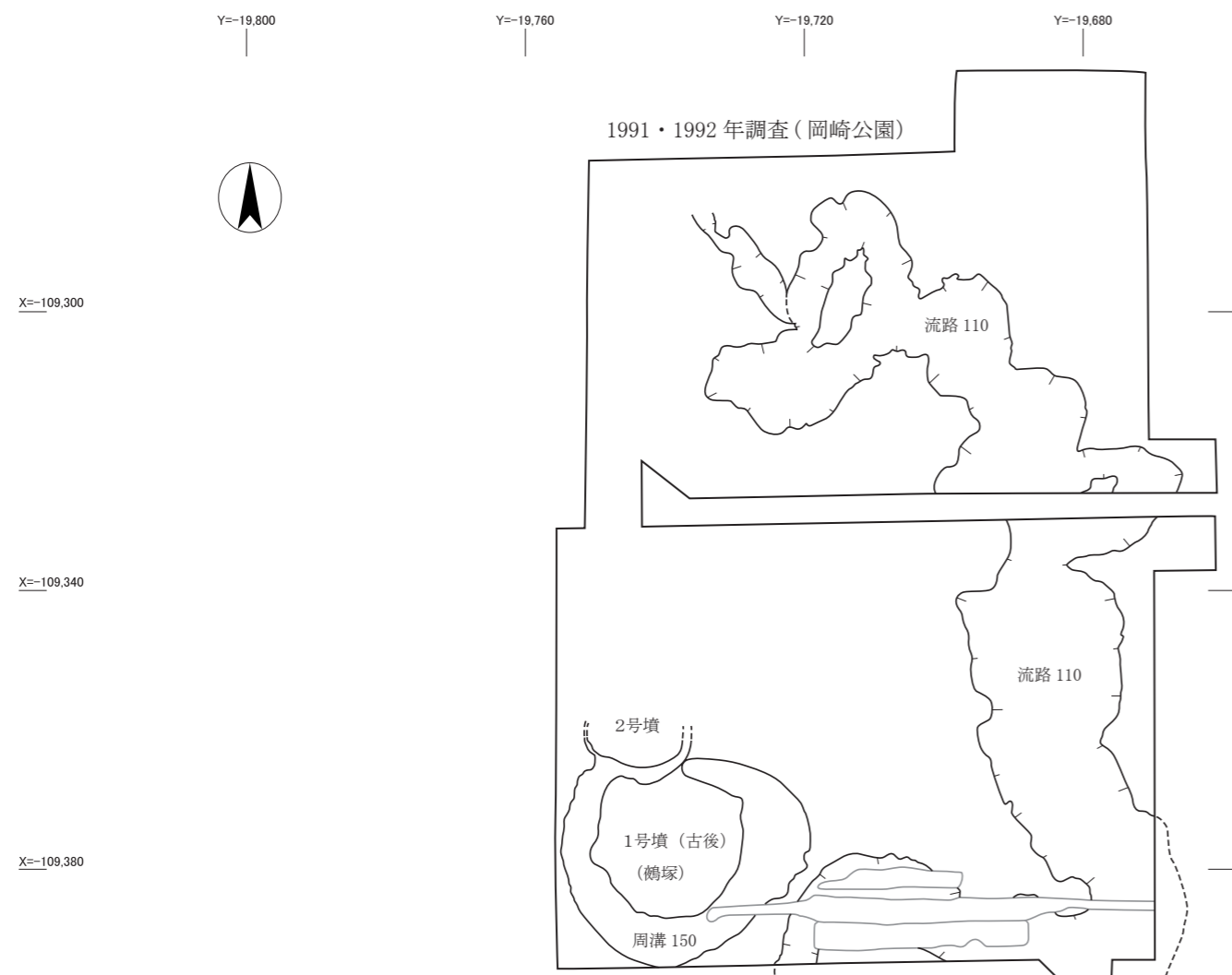


京都市美術館の第1期調査で見つかった遺構 『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』 報告 2014-13
左：円勝寺の西端を区画していたとみられる南北溝（北西から）。右：二条大路末に伴うとみられる東西溝（西から）

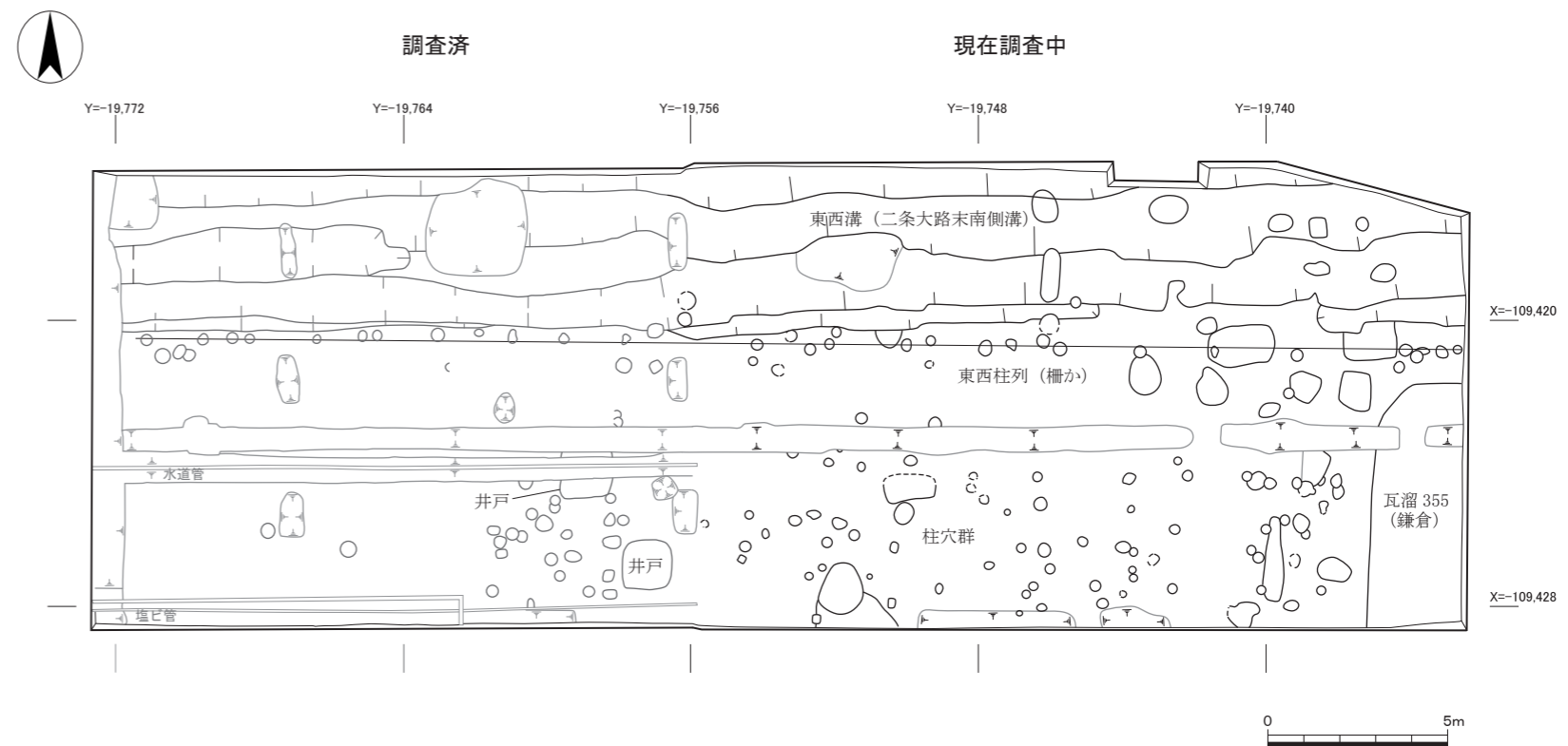


古墳時代初頭の溝（北東から、第1期） 『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』 報告 2014-13

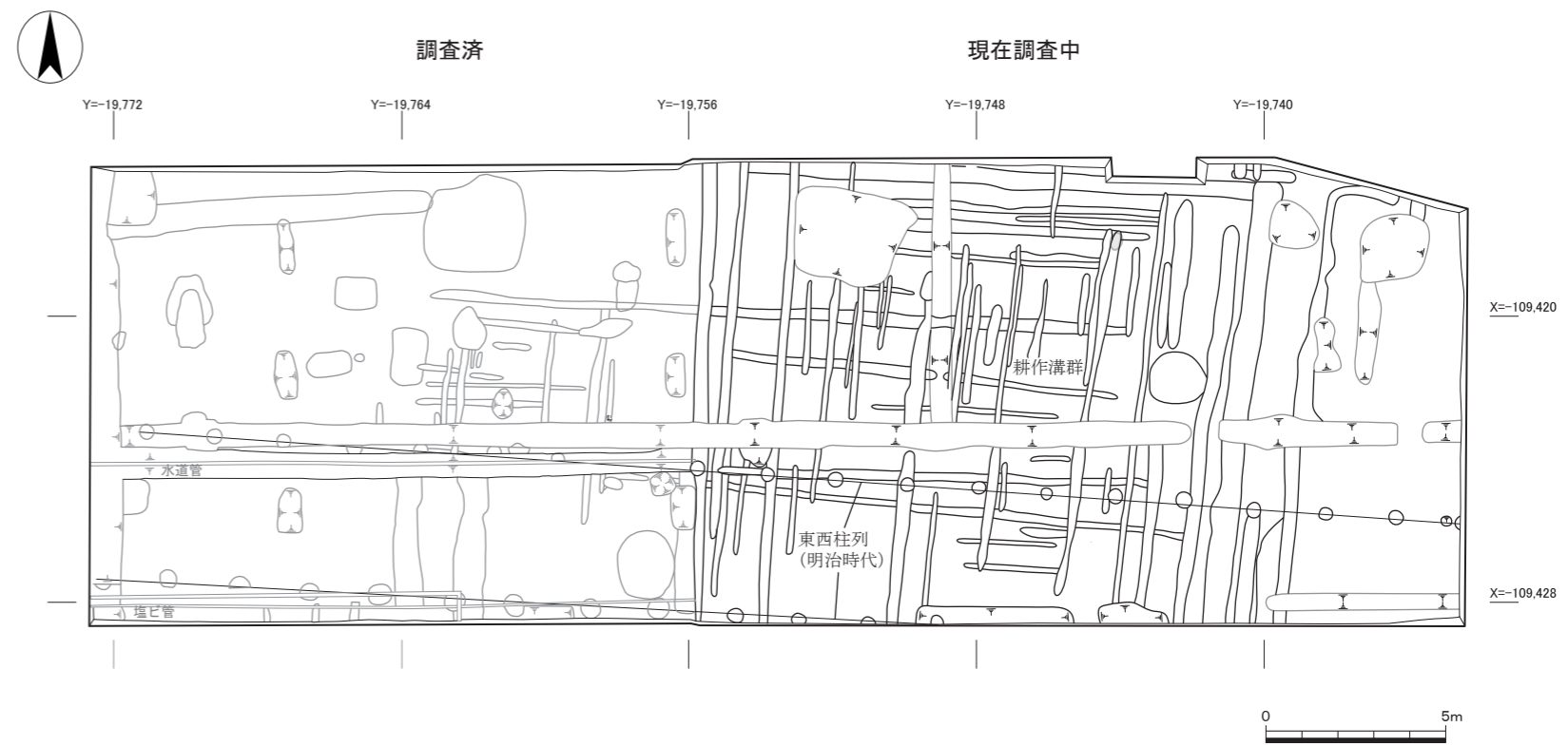
① 円勝寺跡



縄文時代から古墳時代 平面略測図 (1 : 1,000)

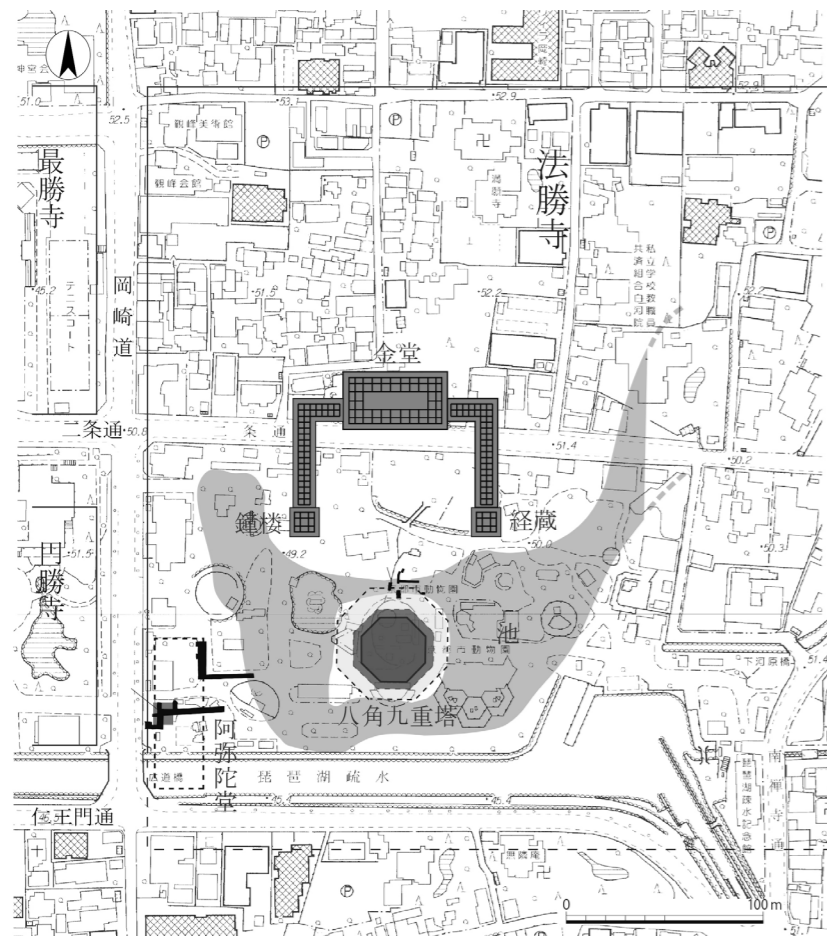


美術館第4期調査 2区 平安時代後期から鎌倉時代 平面略測図 (1 : 200)



美術館第4期調査 2区 室町時代から明治時代 平面略測図 (1 : 200)

② 法勝寺金堂跡



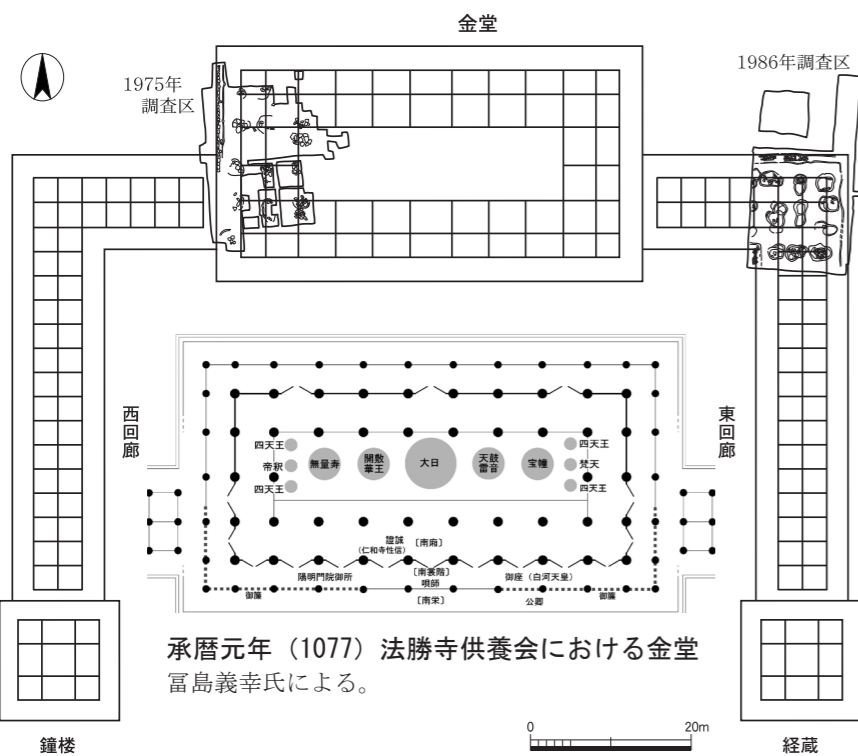
法勝寺の主要伽藍復元図 『リーフレット京都』NO. 279

発掘調査によって金堂・東回廊・八角九重塔・阿弥陀堂などが確認されている。

法勝寺八角九重塔のCG復元図

『リーフレット京都』NO. 270

富島義幸氏による。



承暦元年(1077)法勝寺供養会における金堂
富島義幸氏による。

法勝寺金堂・東西回廊復元図 『京都市内遺跡発掘調査報告』平成22年度

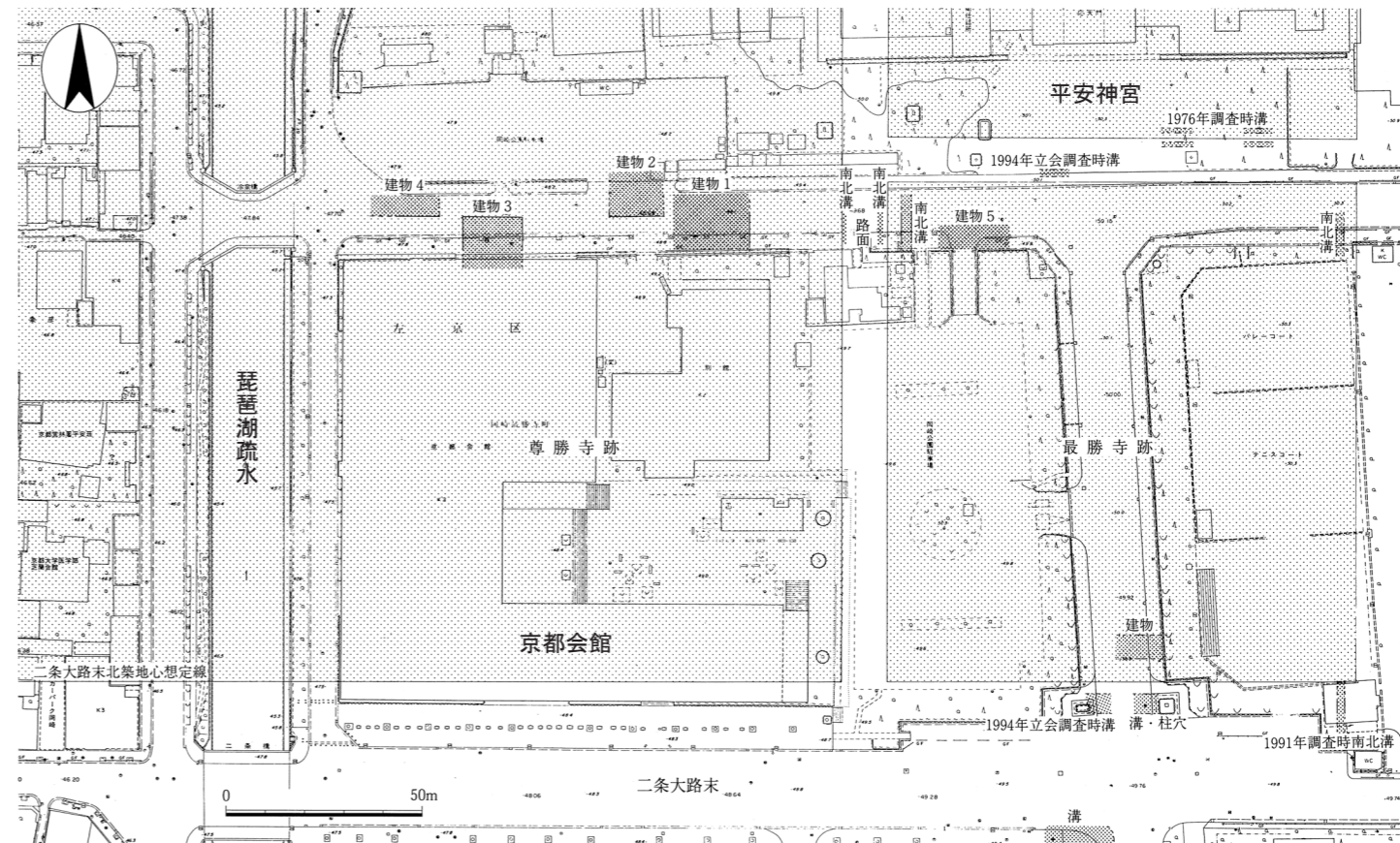
③ 二条大路地業跡



二条大路の遺構 『平成3年度京都市埋蔵文化財調査概要』

右の礫層は二条大路路面。中央は北側溝。左は北面築地と推定。最勝寺東側で検出。湿地を整地した痕跡が遺構として残存した。

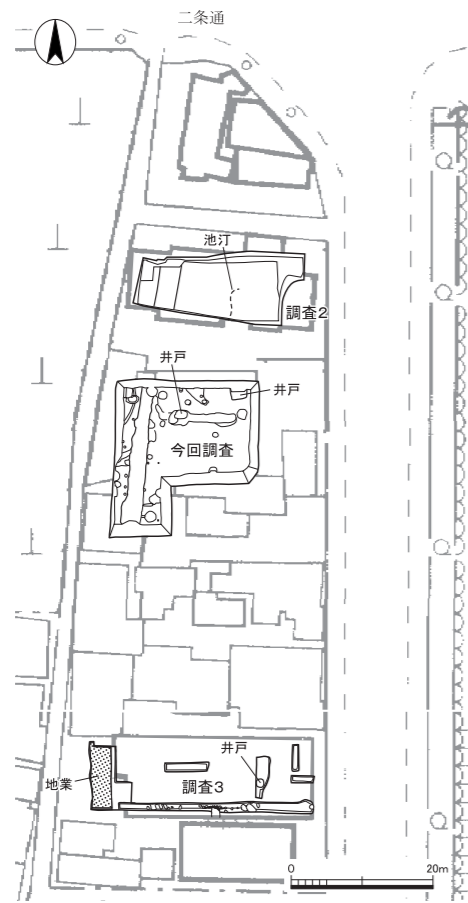
④ 最勝寺跡



尊勝寺・最勝寺の復元図 『平成7年度京都市埋蔵文化財調査概要』

平成7・8年に実施された立会調査で尊勝寺・最勝寺の建物跡と南北道路が見つかり、両寺の境界が判明した。

⑤ 延勝寺跡



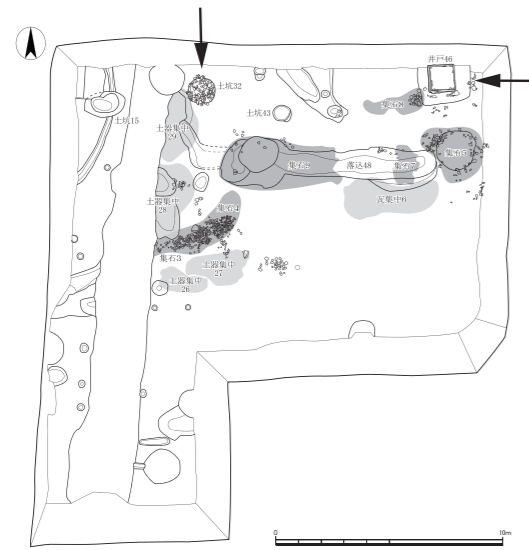
⑥・⑦ 尊勝寺跡



尊勝寺西塔跡の地業（北東から）『昭和59年度京都市埋蔵文化財調査概要』
西塔北側で検出した地業は大きな石材を大量に埋め込むもので、法勝寺八角九重塔の地業と共通する。

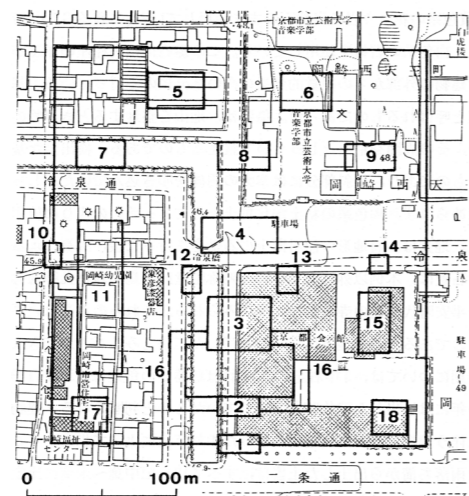


尊勝寺阿彌陀堂跡（西から）『六勝寺跡発掘調査概要』1978年
巨大な建物を支えた礎石の据付穴が検出されている。



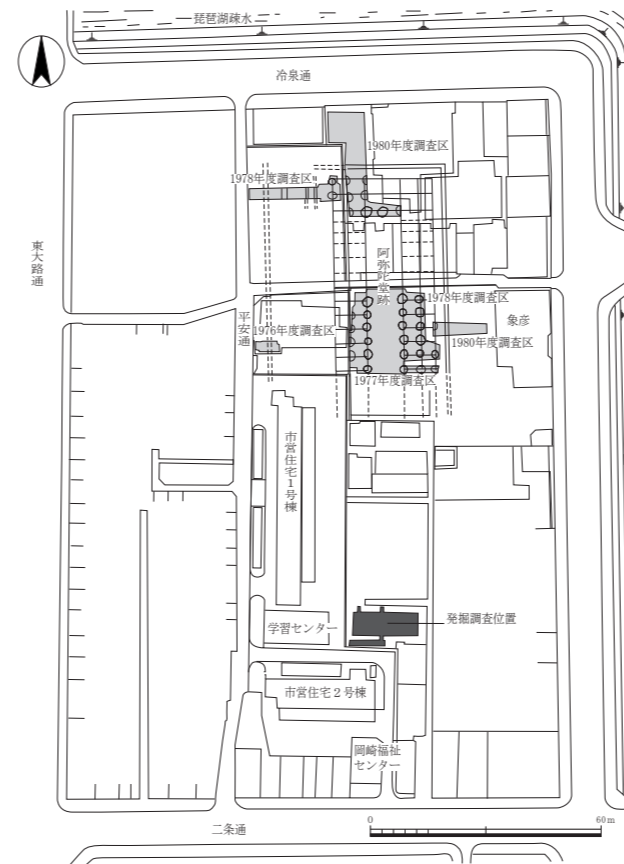
周辺調査位置図（上）・第2面遺構配置図（下）
『延勝寺跡・岡崎遺跡』報告2014-1

平安時代後期・末期から鎌倉時代にわたる2時期の整地層を検出し、下の整地面で木柱組井戸や礎石据付穴とみられる土坑が検出されている（矢印）。

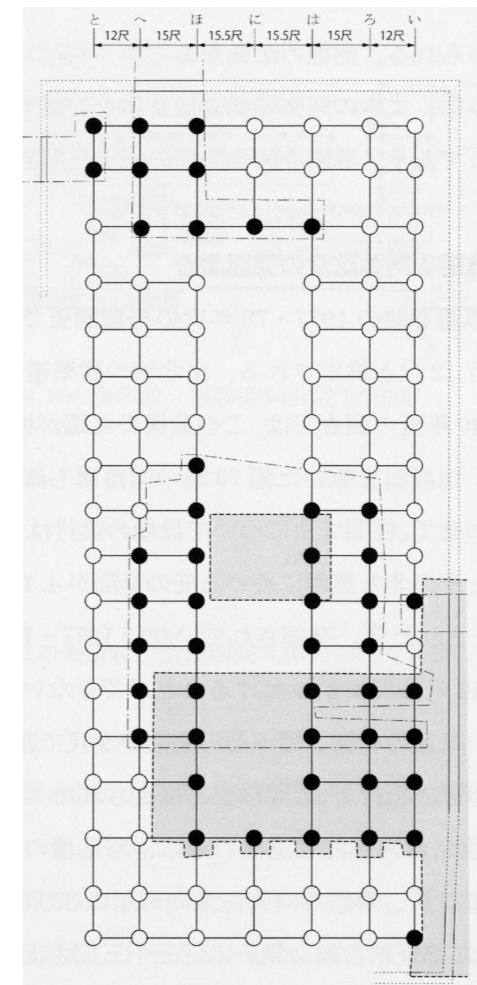


尊勝寺伽藍復元図
『京都市遺跡調査概報』第23冊 1987年

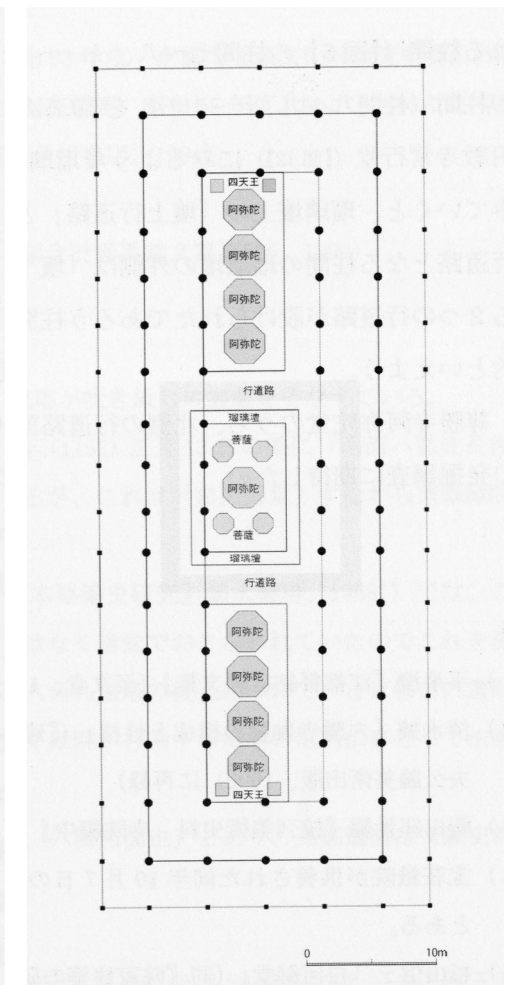
1. 南大門
2. 中門
3. 金堂
4. 講堂
5. 観音堂
6. 五大堂
7. 灌頂堂
8. 薬師堂
9. 曼荼羅堂
10. 西門
11. 阿彌陀堂
12. 鐘樓
13. 経藏
14. 法華堂
15. 准胝堂
16. 回廊
17. 西塔
18. 東塔



尊勝寺阿彌陀堂・西塔の調査位置図
『昭和59年度京都市埋蔵文化財調査概要』



尊勝寺阿彌陀堂復元図 『白河街区跡・尊勝寺跡・岡崎遺跡』イビソク 2015年
富島義幸氏による。



⑧ 尊勝寺跡



尊勝寺観音堂跡（南東から）『京都府遺跡調査概報』第23冊 1987年
建物の身舎、廂、回縁柱列が検出されている。外側には石組の雨落溝がめぐるが、南面中央は外側に張り出し、階段があったと推定される。建物基壇は亀腹とされる。



尊勝寺五大堂跡（南から）『昭和61年度京都市埋蔵文化財調査概要』
建物の南東隅が検出されている。雨落溝の両肩には自然石が平坦面を上にして並べられる。残存する礎石2基は南面外廂のもの。基壇は亀腹状と推定され、高さ約40cm残存する。

⑨ 井戸移築



尊勝寺の北側で見つかった石組井戸の断面（北から）『昭和57年度京都市埋蔵文化財調査概要』
上半部の石組はラップ状に広がる。下半部は方形木枠組で底に曲物を据える。院政期を代表する井戸として、半裁した後、南半分を取り上げて当地に移築された。



法勝寺八角九重塔出土遺物 『京都市内遺跡発掘調査報告』平成22年度